# 校長室だより

1月

2025(令和7)年1月8日
大阪市立天王寺小学校
校 長　藤 原 和 彦

## ひと皮むけた大きな成長を（巳年だけに…）

あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

新しい年とともに3学期が始まりました。始業式に子どもたちに言いましたが、3学期の登校日は48日、6年生に至っては47日しかありません。実質1か月半ですね。長い2学期ですらあっという間に終わったのですから、きっと3学期は音速か光速並みの速さで終わってしまうでしょう。ですから、子どもたちには、本当に毎日を大切に過ごしてほしいと思っています。

ところで、今年の干支(えと)は何でしょう？と聞かれたら、多くの人は巳(み)（へび）と答えるでしょうが、正確に言うと乙巳(きのとみ)です。動物を当てはめた十二支は有名ですが、数や順番を表す十干(じっかん)の乙(きのと)はあまり使われることはありません。干支は正しくは十干十二支(じっかんじゅうにし)と言い、甲(こう)・乙(おつ)・丙(へい)・丁(てい)…と10個ある十干と十二支を組み合わせたもので、全部で60通りあることから六十干支(ろくじっかんし)とも言われます。野球場の甲子園の名前は、この六十干支の最初の甲子（きのえね）の年にできたことに由来しているというのは有名な話です。また、60歳になると暦(こよみ)を一通り経て生まれ変わるという意味で、赤いちゃんちゃんこと頭巾(ずきん)で還暦(かんれき)のお祝いをする風習もあります。

では、実際の蛇(へび)はと言うと、多くの人から怖い、気持ちが悪いと思われがちで、ヒーローものでも敵役に使われるなど悪の象徴的なイメージを持たれていますが、干支の世界では、どうしてなかなか立派な存在です。そもそもなぜ蛇が干支になったのかを調べてみると、蛇は古くからインドや中国で神様の使いとして神聖なものとされていたのが関係しているようです。また、白蛇は、七福神の弁財天の化身とも言われていますし、全国には、蛇を祀る神社がたくさんあります。蛇は、成長のために脱皮を繰り返すことから、復活と再生のシンボルにもなっているほか、巳を実(み)と読み変えて、お金が身（実）に付くと金運上昇を願って蛇皮の財布を使う人もいます。こう書いていくと、何だか蛇が神々(こうごう)しいものに見えてきますね。

今年の干支の乙巳(きのとみ)にも意味があって、乙は十干の2番目で、木(き)の弟(と)とも読むことから乙巳の年は、成長して伸びきった木の枝に実を結ぶ一年になるそうです。ですから、これまでこつこつと努力を続けてきた人は、結果を出せる良い年になるかも知れませんね。私自分がそうなるかと言われるとちょっと自信はありませんが、少しでも多くの実ができるような一年にしたいと思っています。天王寺小学校の子どもたちも、今年一年でいろいろなことを身に着けて、ひと皮むけた大きな成長を遂げてほしいと願っています。

参考：国立国会図書館

# １０％の子どもたち

天王寺小学校では、学校評価の一環として、毎年アンケートを実施しています。子どもたちには、学校での生活を振り返る学校生活アンケート、保護者の皆様には、教育活動についてお尋ねする学校診断アンケートです。今年度も昨年の１１月に実施して、その結果を学校ホームページに掲載していますので、どうぞご覧ください。（紙ベースで配布を希望される方は、学級担任までお知らせください。）

子ども向けの学校生活アンケートは、全部で24問ありますが、最初の１問目は「学校で学習するのは楽しいですか」という質問です。今年の結果で「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」の肯定的な回答をした児童は、去年よりも少し増えて90％でした。6年生がする全国学力テストや大阪市の経年調査などと違って、同じ設問で比較する対象がないので、この数字が高いか低いかを一概に言えませんが、去年よりも増えて１０人中９人がそう思ってくれていることは、素直にうれしく思います。欲を言えば、１００％にしたいところですが、学校が、行きたい場所だけではなく、行かなければならない場所であることを考えると十分な結果かもしれません。

逆に、どちらかと言えばを含め「そう思わない」と答えた１０％の子どもたちはなぜそう答えたのでしょうか。設問の中に「学習するのが」と入っているので、学校は好きだけど勉強が嫌いという子が、素直に「はい」とは言えなかったのならば、それはそれで仕方がないかも知れません。（学習も楽しくなってほしいのですが…。）でも、それが、学級に居場所がなかったり、友だちがいなかったりするようなことが原因だとしたら、とても残念に思います。また、どうしてそう思うのか理由がわからないと言う人もそのまま放っておくのはよくないと思います。そうした子は、すぐに先生に相談してほしいです。原因がわかれば対処もできるからです。ただ、中には、自分の思い通りにいかないから楽しくないという人がいるかも知れませんが、それは間違いです。社会と同じようにもともと学校は思い通りにいかない場所です。そうした中で、自分の思いと他者の考えをすり合わせて折り合いをつけることで、世の中で生きていく力を身に着ける場所なのです。

学校が楽しいと思うのが自分ならば、学校を楽しくするのもまた自分です。学校が楽しくなれば、学校が好きになるし、好きになればもっと楽しくなっていくでしょう。その繰り返しの中で、どんどん主体的に学校生活が送れるのではないでしょうか。教職員は、その手伝いをするのが仕事です。天王寺小学校の子どもたちには、この3学期は、どうしたら学校で学習するのが楽しくなるのかも、少し考えながら学校生活を送ってほしいなあと思いました。